社会福祉法人京都障害者福祉センター

平成３０年度 計算書類等

項目をクリックしてください。ページへ移動します。

１　計算書類

２　事業報告

法人単位資金収支計算書

（自）平成30年 4月 1日（至）平成31年 3月31日

第一号第一様式（第十七条第四項関係）

（単位：円）

勘定科目			予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)
事業活動による収支	収入	0183 就労支援事業収入	146,750,000	145,513,609	1,236,391
		0184 障害福祉サービス等事業収入	1,330,513,000	1,330,392,385	120,615
		0195 その他の事業収入	110,187,000	110,073,969	113,031
		0197 その他の収入	2,063,000	1,618,723	444,277
		0199 経常経費寄附金収入	1,587,000	1,585,716	1,284
		0200 受取利息配当金収入	14,711,000	14,657,479	53,521
		0201 その他の収入	19,921,000	19,015,171	905,829
		事業活動収入計(1)	1,625,732,000	1,622,857,052	2,874,948
	支出	0129 人件費支出	1,154,962,415	1,130,552,382	24,410,033
		0130 事業費支出	113,077,000	100,597,847	12,479,153
		0131 事務費支出	155,410,000	139,413,962	15,996,038
		0132 就労支援事業支出	149,826,700	140,391,708	9,434,992
		0137 支払利息支出	2,990,000	2,609,270	380,730
		0138 その他の支出	13,808,000	12,971,129	836,871
		0140 流動資産評価損等による資金減少額	130,000	127,211	2,789
		事業活動支出計(2)	1,590,204,115	1,526,663,509	63,540,606
		事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	35,527,885	96,193,543	△60,665,658
施設整備等による収支	収入	0204 施設整備等補助金収入	4,570,000	4,436,000	134,000
		0205 施設整備等寄附金収入	216,000	216,000	
		0206 設備資金借入金収入	197,000,000	197,000,000	
		0207 固定資産売却収入	92,000	90,730	1,270
		施設整備等収入計(4)	201,878,000	201,742,730	135,270
	支出	0143 設備資金借入金元金償還支出	34,900,000	33,887,000	1,013,000
		0144 固定資産取得支出	45,417,000	36,960,558	8,456,442
		0146 ファイナンス・リース債務の返済支出	1,180,000	1,179,360	640
		0147 その他の施設整備等による支出	2,640,000	2,556,450	83,550
		施設整備等支出計(5)	84,137,000	74,583,368	9,553,632
		施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	117,741,000	127,159,362	△9,418,362
その他の活動による収支	収入	0214 積立資産取崩収入	7,877,000	8,718,238	△841,238
		0224 その他の活動による収入	1,802,000	1,735,723	66,277
		その他の活動収入計(7)	9,679,000	10,453,961	△774,961
	支出	0152 積立資産支出	15,963,000	33,861,252	△17,898,252
		0162 その他の活動による支出	1,416,000	1,355,618	60,382
		その他の活動支出計(8)	17,379,000	35,216,870	△17,837,870
		その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△7,700,000	△24,762,909	17,062,909
		予備費支出(10)		—	
		当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	145,568,885	198,589,996	△53,021,111

前期末支払資金残高(12)	595,225,367	595,240,068	△14,701
当期末支払資金残高(11)+(12)	740,794,252	793,830,064	△53,035,812

資金収支内訳表

（自）平成30年 4月 1日（至）平成31年 3月31日

第一号第二様式（第十七条第四項関係）

（単位：円）

勘定科目			社会福祉事業	公益事業	合計
事業活動による収支	収入	0183 就労支援事業収入	150,194,005		150,194,005
		0184 障害福祉サービス等事業収入	1,330,392,385		1,330,392,385
		0195 その他の事業収入	71,019,612	39,054,357	110,073,969
		0197 その他の収入	1,618,723		1,618,723
		0199 経常経費寄附金収入	1,585,716		1,585,716
		0200 受取利息配当金収入	14,657,221	258	14,657,479
		0201 その他の収入	19,015,171		19,015,171
		事業活動収入計(1)	1,588,482,833	39,054,615	1,627,537,448
	支出	0129 人件費支出	1,124,239,983	6,312,399	1,130,552,382
		0130 事業費支出	100,597,847		100,597,847
		0131 事務費支出	122,003,236	22,091,122	144,094,358
		0132 就労支援事業支出	140,391,708		140,391,708
		0137 支払利息支出	2,609,270		2,609,270
		0138 その他の支出	12,971,129		12,971,129
		0140 流動資産評価損等による資金減少額	127,211		127,211
		事業活動支出計(2)	1,502,940,384	28,403,521	1,531,343,905
		事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	85,542,449	10,651,094	96,193,543
施設整備等による収支	収入	0204 施設整備等補助金収入	4,436,000		4,436,000
		0205 施設整備等寄附金収入	216,000		216,000
		0206 設備資金借入金収入	197,000,000		197,000,000
		0207 固定資産売却収入	90,730		90,730
		施設整備等収入計(4)	201,742,730		201,742,730
	支出	0143 設備資金借入金元金償還支出	33,887,000		33,887,000
		0144 固定資産取得支出	33,925,758	3,034,800	36,960,558
		0146 ファイナンス・リース債務の返済支出	1,179,360		1,179,360
		0147 その他の施設整備等による支出	2,556,450		2,556,450
		施設整備等支出計(5)	71,548,568	3,034,800	74,583,368
		施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	130,194,162	△3,034,800	127,159,362
その他の活動による収支	収入	0214 積立資産取崩収入	8,718,238		8,718,238
		0215 事業区分間長期借入金収入		2,592,000	2,592,000
		0218 事業区分間長期貸付金回収収入	30,021,400		30,021,400
		0224 その他の活動による収入	1,735,723		1,735,723
		その他の活動収入計(7)	40,475,361	2,592,000	43,067,361
	支出	0152 積立資産支出	33,861,252		33,861,252
		0153 事業区分間長期貸付金支出	2,592,000		2,592,000
		0156 事業区分間長期借入金返済支出		30,021,400	30,021,400
		0162 その他の活動による支出	1,355,618		1,355,618
		その他の活動支出計(8)	37,808,870	30,021,400	67,830,270
		その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	2,666,491	△27,429,400	△24,762,909
当期資金収支差額合計(10)=(3)+(6)+(9)			218,403,102	△19,813,106	198,589,996

前期末支払資金残高(11)	561,827,720	33,412,348	595,240,068
当期末支払資金残高(10)+(11)	780,230,822	13,599,242	793,830,064

事業所名

事業・拠点 [0001:京都身体障害者福祉センター]

資金収支内訳表

（自）平成30年 4月 1日（至）平成31年 3月31日

第一号第二様式（第十七条第四項関係）

（単位：円）

勘定科目			内部取引消去	法人合計
事業活動による収支	収入	0183 就労支援事業収入	△4,680,396	145,513,609
		0184 障害福祉サービス等事業収入		1,330,392,385
		0195 その他の事業収入		110,073,969
		0197 その他の収入		1,618,723
		0199 経常経費寄附金収入		1,585,716
		0200 受取利息配当金収入		14,657,479
		0201 その他の収入		19,015,171
		事業活動収入計(1)	△4,680,396	1,622,857,052
	支出	0129 人件費支出		1,130,552,382
		0130 事業費支出		100,597,847
		0131 事務費支出	△4,680,396	139,413,962
		0132 就労支援事業支出		140,391,708
		0137 支払利息支出		2,609,270
		0138 その他の支出		12,971,129
		0140 流動資産評価損等による資金減少額		127,211
		事業活動支出計(2)	△4,680,396	1,526,663,509
		事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		96,193,543
施設整備等による収支	収入	0204 施設整備等補助金収入		4,436,000
		0205 施設整備等寄附金収入		216,000
		0206 設備資金借入金収入		197,000,000
		0207 固定資産売却収入		90,730
		施設整備等収入計(4)		201,742,730
	支出	0143 設備資金借入金元金償還支出		33,887,000
		0144 固定資産取得支出		36,960,558
		0146 ファイナンス・リース債務の返済支出		1,179,360
		0147 その他の施設整備等による支出		2,556,450
		施設整備等支出計(5)		74,583,368
		施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		127,159,362
その他の活動による収支	収入	0214 積立資産取崩収入		8,718,238
		0215 事業区分間長期借入金収入	△2,592,000	
		0218 事業区分間長期貸付金回収収入	△30,021,400	
		0224 その他の活動による収入		1,735,723
		その他の活動収入計(7)	△32,613,400	10,453,961
	支出	0152 積立資産支出		33,861,252
		0153 事業区分間長期貸付金支出	△2,592,000	
		0156 事業区分間長期借入金返済支出	△30,021,400	
		0162 その他の活動による支出		1,355,618
		その他の活動支出計(8)	△32,613,400	35,216,870
		その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		△24,762,909
当期資金収支差額合計(10)=(3)+(6)+(9)				198,589,996

前期末支払資金残高(11)		595,240,068
当期末支払資金残高(10)+(11)		793,830,064

法人単位事業活動計算書

（自）平成30年 4月 1日（至）平成31年 3月31日

第二号第一様式（第二十三条第四項関係）

（単位：円）

勘定科目			当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
サービス活動増減の部	収益	0074 就労支援事業収益	145,513,609	141,083,310	4,430,299
		0075 障害福祉サービス等事業収益	1,330,392,385	1,306,414,920	23,977,465
		0086 その他の事業収益	110,073,969	108,836,806	1,237,163
		0088 その他の収益	1,618,723	10,259,423	△8,640,700
		0089 経常経費寄附金収益	1,585,716	1,127,192	458,524
		サービス活動収益計(1)	1,589,184,402	1,567,721,651	21,462,751
	費用	0015 人件費	1,131,701,956	1,090,677,889	41,024,067
		0016 事業費	100,597,847	98,743,328	1,854,519
		0017 事務費	140,689,904	154,184,819	△13,494,915
		0018 就労支援事業費用	143,377,284	156,431,387	△13,054,103
		0027 減価償却費	104,365,246	80,517,195	23,848,051
		0028 国庫補助金等特別積立金取崩額	△8,171,795	△8,973,141	801,346
		サービス活動費用計(2)	1,612,560,442	1,571,581,477	40,978,965
		サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	△23,376,040	△3,859,826	△19,516,214
サービス活動外増減の部	収益	0093 受取利息配当金収益	14,657,479	25,006,628	△10,349,149
		0094 有価証券評価益		5,059,628	△5,059,628
		0095 有価証券売却益		5,578,938	△5,578,938
		0098 その他のサービス活動外収益	19,015,171	18,652,958	362,213
		サービス活動外収益計(4)	33,672,650	54,298,152	△20,625,502
	費用	0033 支払利息	2,609,270	1,665,462	943,808
		0034 有価証券評価損	127,211		127,211
		0038 その他のサービス活動外費用	12,971,129	12,612,139	358,990
		サービス活動外費用計(5)	15,707,610	14,277,601	1,430,009
		サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	17,965,040	40,020,551	△22,055,511
		経常増減差額(7)=(3)+(6)	△5,411,000	36,160,725	△41,571,725
特別増減の部	収益	0100 施設整備等補助金収益	4,436,000	5,431,000	△995,000
		0101 施設整備等寄附金収益	216,000	230,000	△14,000
		0103 固定資産受贈額		150,000	△150,000
		0104 固定資産売却益	90,728	308,616	△217,888
		0111 その他の特別収益	1,735,723	8,133,982	△6,398,259
		特別収益計(8)	6,478,451	14,253,598	△7,775,147
	費用	0042 固定資産売却損・処分損	8,542,609	230,512	8,312,097
		0044 国庫補助金等特別積立金積立額	4,436,000	5,431,000	△995,000
		0052 その他の特別損失	1,355,618	8,128,293	△6,772,675
		特別費用計(9)	14,334,227	13,789,805	544,422
		特別増減差額(10)=(8)-(9)	△7,855,776	463,793	△8,319,569
		税引前当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	△13,266,776	36,624,518	△49,891,294
		法人税、住民税及び事業税(12)		926,400	△926,400
		法人税等調整額(13)			
		当期活動増減差額(14)=(11)-(12)-(13)	△13,266,776	35,698,118	△48,964,894
繰越活動増減差額の部		前期繰越活動増減差額(15)	1,843,067,774	1,820,017,018	23,050,756
		当期末繰越活動増減差額(16)=(14)+(15)	1,829,800,998	1,855,715,136	△25,914,138
		基本金取崩額(17)			
		その他の積立金取崩額(18)	8,718,238	6,751,156	1,967,082
		その他の積立金積立額(19)	33,861,252	19,398,518	14,462,734
		次期繰越活動増減差額(20)=(16)+(17)+(18)-(19)	1,804,657,984	1,843,067,774	△38,409,790

事業活動内訳表

（自）平成30年 4月 1日（至）平成31年 3月31日

第二号第二様式（第二十三条第四項関係）

（単位：円）

勘定科目			京都身体障害者福祉センター		合計	内部取引消去	法人合計
			社会福祉事業	公益事業			
サービス活動増減の部	収益	0074 就労支援事業収益	150,194,005		150,194,005	△4,680,396	145,513,609
		0075 障害福祉サービス等事業収益	1,330,392,385		1,330,392,385		1,330,392,385
		0086 その他の事業収益	71,019,612	39,054,357	110,073,969		110,073,969
		0088 その他の収益	1,618,723		1,618,723		1,618,723
		0089 経常経費寄附金収益	1,585,716		1,585,716		1,585,716
		サービス活動収益計(1)	1,554,810,441	39,054,357	1,593,864,798	△4,680,396	1,589,184,402
	費用	0015 人件費	1,125,294,357	6,407,599	1,131,701,956		1,131,701,956
		0016 事業費	100,597,847		100,597,847		100,597,847
		0017 事務費	123,279,178	22,091,122	145,370,300	△4,680,396	140,689,904
		0018 就労支援事業費用	143,377,284		143,377,284		143,377,284
		0027 減価償却費	93,996,110	10,369,136	104,365,246		104,365,246
		0028 国庫補助金等特別積立金取崩額	△8,171,795		△8,171,795		△8,171,795
		サービス活動費用計(2)	1,578,372,981	38,867,857	1,617,240,838	△4,680,396	1,612,560,442
		サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	△23,562,540	186,500	△23,376,040		△23,376,040
サービス活動外増減の部	収益	0093 受取利息配当金収益	14,657,221	258	14,657,479		14,657,479
		0098 その他のサービス活動外収益	19,015,171		19,015,171		19,015,171
		サービス活動外収益計(4)	33,672,392	258	33,672,650		33,672,650
	費用	0033 支払利息	2,609,270		2,609,270		2,609,270
		0034 有価証券評価損	127,211		127,211		127,211
		0038 その他のサービス活動外費用	12,971,129		12,971,129		12,971,129
		サービス活動外費用計(5)	15,707,610		15,707,610		15,707,610
		サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	17,964,782	258	17,965,040		17,965,040
		経常増減差額(7)=(3)+(6)	△5,597,758	186,758	△5,411,000		△5,411,000
特別増減の部	収益	0100 施設整備等補助金収益	4,436,000		4,436,000		4,436,000
		0101 施設整備等寄附金収益	216,000		216,000		216,000
		0104 固定資産売却益	90,728		90,728		90,728
		0111 その他の特別収益	1,735,723		1,735,723		1,735,723
		特別収益計(8)	6,478,451		6,478,451		6,478,451
	費用	0042 固定資産売却損・処分損	8,491,820	50,789	8,542,609		8,542,609
		0044 国庫補助金等特別積立金積立額	4,436,000		4,436,000		4,436,000
		0052 その他の特別損失	1,355,618		1,355,618		1,355,618
		特別費用計(9)	14,283,438	50,789	14,334,227		14,334,227
		特別増減差額(10)=(8)-(9)	△7,804,987	△50,789	△7,855,776		△7,855,776
		税引前当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	△13,402,745	135,969	△13,266,776		△13,266,776
		法人税、住民税及び事業税(12)					
		法人税等調整額(13)					
		当期活動増減差額(14)=(11)-(12)-(13)	△13,402,745	135,969	△13,266,776		△13,266,776
繰越活動増減差額の部		前期繰越活動増減差額(15)	1,781,919,484	61,148,290	1,843,067,774		1,843,067,774
		当期末繰越活動増減差額(16)=(14)+(15)	1,768,516,739	61,284,259	1,829,800,998		1,829,800,998
		基本金取崩額(17)					
		その他の積立金取崩額(18)	8,718,238		8,718,238		8,718,238
		その他の積立金積立額(19)	33,861,252		33,861,252		33,861,252
		次期繰越活動増減差額(20)=(16)+(17)+(18)-(19)	1,743,373,725	61,284,259	1,804,657,984		1,804,657,984

社会福祉法人名　社会福祉法人　京都身体障害者福祉センター

事業所名

事業・拠点　［0001:京都障害者福祉センター］

施設長	副施設長	主任	副主任	担当者

法人単位貸借対照表

平成31年 3月31日現在

第三号第一様式（第二十七条第四項関係）

（単位：円）

資産の部			
	当年度末	前年度末	増　減
0001 流動資産	905,668,283	707,641,629	198,026,654
0270 現金預金	559,624,155	366,089,801	193,534,354
1121 有価証券	104,032,584	104,159,795	△127,211
1131 事業未収金	215,269,945	206,034,059	9,235,886
1132 未収金	2,067,975	10,312,972	△8,244,997
1133 未収補助金	13,721,763	7,411,702	6,310,061
1151 商品・製品	2,012,289	2,436,066	△423,777
1153 原材料	2,227,052	2,998,316	△771,264
1161 立替金	61,833	30,934	30,899
1162 前払金	308,531	290,799	17,732
1163 前払費用	4,294,464	5,304,600	△1,010,136
1181 仮払金		1,521,111	△1,521,111
1191 その他の流動資産	2,047,692	1,051,474	996,218
0002 固定資産	2,253,011,098	2,305,321,628	△52,310,530
0003 基本財産	1,475,816,031	1,337,983,374	137,832,657
1211 土地	526,440,671	526,440,671	
1212 建物	948,075,360	810,242,703	137,832,657
1221 定期預金	1,300,000	1,300,000	
0004 その他の固定資産	777,195,067	967,338,254	△190,143,187
1312 建物	118,638,450	126,148,264	△7,509,814
1313 構築物	39,536,694	21,299,640	18,237,054
1314 機械及び装置	16,302,502	18,811,429	△2,508,927
1315 車輌運搬具	29,981,966	37,806,626	△7,824,660
1316 器具及び備品	61,713,799	62,558,685	△844,886
1317 建設仮勘定		207,430,581	△207,430,581
1319 有形リース資産	1,474,245	2,653,605	△1,179,360
1321 権利	3,694,661	3,161,018	533,643
1322 ソフトウェア	27,404,046	34,447,006	△7,042,960
1324 投資有価証券	10,000	10,000	
1332 その他の積立資産	475,762,615	450,619,601	25,143,014
1334 長期前払費用	2,676,089	2,391,799	284,290
資産の部合計	3,158,679,381	3,012,963,257	145,716,124

負債の部			
	当年度末	前年度末	増　減
0006 流動負債	197,112,676	185,184,621	11,928,055
2112 事業未払金	72,736,360	69,513,083	3,223,277
2113 その他の未払金	4,417,928	8,548,200	△4,130,272
2122 1年以内返済予定設備資金借入金	39,117,000	27,974,000	11,143,000
2124 1年以内返済予定リース債務	1,179,360	1,179,360	
2131 未払費用	8,313,662	7,977,766	335,896
2132 預り金	819,082	1,105,510	△286,428
2133 職員預り金	18,895,354	18,328,314	567,040
2141 前受金	368,800	442,832	△74,032
2152 賞与引当金	51,265,130	50,115,556	1,149,574
0007 固定負債	648,707,840	497,917,200	150,790,640
2311 設備資金借入金	648,413,000	496,443,000	151,970,000
2313 リース債務	294,840	1,474,200	△1,179,360
負債の部合計	845,820,516	683,101,821	162,718,695

純資産の部			
0009 基本金	1,300,000	1,300,000	
3111 基本金	1,300,000	1,300,000	
0010 国庫補助金等特別積立金	31,138,266	34,874,061	△3,735,795
3211 国庫補助金等特別積立金	31,138,266	34,874,061	△3,735,795
0011 その他の積立金	475,762,615	450,619,601	25,143,014
3221 その他の積立金	475,762,615	450,619,601	25,143,014
0012 次期繰越活動増減差額	1,804,657,984	1,843,067,774	△38,409,790
3311 次期繰越活動増減差額	1,804,657,984	1,843,067,774	△38,409,790
3312 （うち当期活動増減差額）	△13,266,776	35,698,118	△48,964,894
純資産の部合計	2,312,858,865	2,329,861,436	△17,002,571
負債及び純資産の部合計	3,158,679,381	3,012,963,257	145,716,124

社会福祉法人名　社会福祉法人　京都身体障害者福祉センター
事業所名
事業・拠点　［0001:京都身体障害者福祉センター］

貸借対照表内訳表

平成31年 3月31日現在

第三号第二様式（第二十七条第四項関係）

（単位：円）

勘定科目	社会福祉事業	公益事業	合計	内部取引消去	法人合計
0001 流動資産	893,039,374	16,215,326	909,254,700	△3,586,417	905,668,283
0270 現金預金	547,324,161	12,299,994	559,624,155		559,624,155
1121 有価証券	104,032,584		104,032,584		104,032,584
1131 事業未収金	215,130,606	3,725,756	218,856,362	△3,586,417	215,269,945
1132 未収金	1,959,399	108,576	2,067,975		2,067,975
1133 未収補助金	13,721,763		13,721,763		13,721,763
1151 商品・製品	2,012,289		2,012,289		2,012,289
1153 原材料	2,227,052		2,227,052		2,227,052
1161 立替金	61,833		61,833		61,833
1162 前払金	308,531		308,531		308,531
1163 前払費用	4,213,464	81,000	4,294,464		4,294,464
1191 その他の流動資産	2,047,692		2,047,692		2,047,692
0002 固定資産	2,205,230,881	105,055,217	2,310,286,098	△57,275,000	2,253,011,098
0003 基本財産	1,475,816,031		1,475,816,031		1,475,816,031
1211 土地	526,440,671		526,440,671		526,440,671
1212 建物	948,075,360		948,075,360		948,075,360
1221 定期預金	1,300,000		1,300,000		1,300,000
0004 その他の固定資産	729,414,850	105,055,217	834,470,067	△57,275,000	777,195,067
1312 建物	35,427,434	83,211,016	118,638,450		118,638,450
1313 構築物	35,800,338	3,736,356	39,536,694		39,536,694
1314 機械及び装置	15,828,422	474,080	16,302,502		16,302,502
1315 車輌運搬具	29,981,966		29,981,966		29,981,966
1316 器具及び備品	44,080,034	17,633,765	61,713,799		61,713,799
1319 有形リース資産	1,474,245		1,474,245		1,474,245
1321 権利	3,694,661		3,694,661		3,694,661
1322 ソフトウェア	27,404,046		27,404,046		27,404,046
1324 投資有価証券	10,000		10,000		10,000
1326 事業区分間長期貸付金	57,275,000		57,275,000	△57,275,000	
1332 その他の積立資産	475,762,615		475,762,615		475,762,615
1334 長期前払費用	2,676,089		2,676,089		2,676,089
資産の部合計	3,098,270,255	121,270,543	3,219,540,798	△60,861,417	3,158,679,381
0006 流動負債	197,987,809	2,711,284	200,699,093	△3,586,417	197,112,676
2112 事業未払金	74,248,551	2,074,226	76,322,777	△3,586,417	72,736,360
2113 その他の未払金	4,417,928		4,417,928		4,417,928
2122 1年以内返済予定設備資金借入金	39,117,000		39,117,000		39,117,000
2124 1年以内返済予定リース債務	1,179,360		1,179,360		1,179,360
2131 未払費用	8,298,598	15,064	8,313,662		8,313,662
2132 預り金	292,288	526,794	819,082		819,082
2133 職員預り金	18,895,354		18,895,354		18,895,354
2141 前受金	368,800		368,800		368,800
2152 賞与引当金	51,169,930	95,200	51,265,130		51,265,130
0007 固定負債	648,707,840	57,275,000	705,982,840	△57,275,000	648,707,840
2311 設備資金借入金	648,413,000		648,413,000		648,413,000
2313 リース債務	294,840		294,840		294,840
2315 事業区分間長期借入金		57,275,000	57,275,000	△57,275,000	
負債の部合計	846,695,649	59,986,284	906,681,933	△60,861,417	845,820,516
0009 基本金	1,300,000		1,300,000		1,300,000
3111 基本金	1,300,000		1,300,000		1,300,000
0010 国庫補助金等特別積立金	31,138,266		31,138,266		31,138,266
3211 国庫補助金等特別積立金	31,138,266		31,138,266		31,138,266
0011 その他の積立金	475,762,615		475,762,615		475,762,615
3221 その他の積立金	475,762,615		475,762,615		475,762,615
0012 次期繰越活動増減差額	1,743,373,725	61,284,259	1,804,657,984		1,804,657,984
3311 次期繰越活動増減差額	1,743,373,725	61,284,259	1,804,657,984		1,804,657,984
3312 （うち当期活動増減差額）	△13,402,745	135,969	△13,266,776		△13,266,776
純資産の部合計	2,251,574,606	61,284,259	2,312,858,865		2,312,858,865
負債及び純資産の部合計	3,098,270,255	121,270,543	3,219,540,798	△60,861,417	3,158,679,381

報告事項

平成30年度事業報告について

社会福祉法人京都障害者福祉センター

平成30年度　事業報告書　　目次

インデックスNo	事業所名	頁
1	本部事務局	01
2	支援センター　らくなん・らくとう	03
3	洛南身体障害者福祉会館	05
4	洛南障害者授産所	07
5	洛南障害者デイサービスセンター あすなろ	08
6	伏見障害者デイサービスセンター	09
7	伏見障害者授産所	10
8	生活サポートセンター　とらい	12
9	グループホーム ふしみ寮	13
10	放課後等デイサービス　らいと	14
11	ふしみ学園	15
12	いたはし学園	16
13	山科身体障害者福祉会館	17
14	福祉有償運送・ラクショーネ	19
15	山科障害者授産所	20
16	山科障害者デイセンター（ぶらんこ）	22
17	やましな学園	23
18	だいご学園	25
19	デイスポット　楽	26
20	生活サポートセンター　ほっと	27
21	共同ホーム あんど	28
22	放課後等デイサービス　すてーじ	30

平成 30 年度本部事業報告書

1　事業の概要について

30 年度決算の当期資金収支差額は、約１９９百万円の黒字となったが、この中には前年度に収入する予定の借入金 197 百万円が含まれているため、それを除いた 30 年度の実質収支差額は僅か２百万円となり、例年と比べると厳しい状況となった。

主な理由は、収入では従来からの京都市補助金が毎年減額されて 15%まで縮小されたこと、国における３年毎の報酬改定により、重度障がい利用者が多い施設は概ね増収となったが、逆に軽度障がい利用者の多い施設は減収となったこと、就労継続支援事業Ｂ型の目標工賃達成加算廃止による減収や就労移行支援事業の基本報酬単価が前年度の利用者就職実績によって大きく変動することが影響している。更に京都市監査で山科身障会館におけるサービス管理責任者兼務による一部報酬減算指摘と返納がある。

費用では、利用者支援の質向上のため非常勤職員から正職員への登用を進めたことや利用者増に伴う職員配置数の増などで人件費が嵩んだこと、だいご学園分園ふらっとオープンに伴う設備・備品や職員配置等の初期投資費用が挙げられる。

事業運営については、開業２年目となった東野センターの各施設及び開業３年目の洛南デイサービスあすなろについては、順調に利用者も増えて黒字となり経営も安定した。また、だいご学園についても分園開設に伴い利用者も徐々に増えて、平成 31 年４月には利用者定員を 30 名から 40 名に増員した。喫茶の運営も順調で地元の皆さんのご利用が定着してきた。

2　主な取組について

（1）だいご学園分園”ふらっと“が５月にオープンし、
　1 階は喫茶とパン工房、２階は作業場を設置した。
　　31 年４月には定員を 30 名から 40 名に増員した。

（2）法人名称を 31 年４月に変更した。
　社会福祉法人京都身体障害者福祉センターから「身体」の２文字を削除した名称に変更した。

（3）「法人災害対策マニュアル」策定と防災研修を実施した。
　法人の一体的な対応を目指すため２月に策定して研修した後、４月から運用開始した。

（4）公認会計士による会計監査を実施　29 年度から監査委託し 30 年度も継続実施した。

（5）人事評価制度試行を継続
　４月から主任・副主任に拡大実施、31 年５月からは新たに一時金で報酬反映を試行予定。

（6）地域貢献事業　　法人の地域貢献事業として 30 年度も下記の事業を実施した。

日程、事業名	事業内容等
30.7.29 洛南ふれあい夏まつり	洛南エリア各施設と地域の福祉施設や地元商店と協働して、地元小中学生も出演し地域住民の方が多く集われ交流する夏まつりを開催。
30.8.25 伏見ふれあいまつり	伏見エリア各施設と地域の関係機関が協働して、地元小中学生も出演し地域住民の方が多く集われ交流する夏まつりを開催。
30.10.19 車いす体験学習講習会	伏見障害者授産所で地元の住吉小学校児童を対象に車椅子体験を実施した。毎年近隣小学校で実施
30.10.28 だいご学園マルシェ	だいご学園「ふらっと」の建物と隣接する公園を会場に、地域の大人も子どもも集って楽しめるステージや体験イベントを実施し、地元交流した。
30.11.4 やったね！秋まつり	山科エリア各施設と地域の福祉施設等が連携して、地元の小中学生等も多数参加するステージ発表会等を開催し、地域の方が集い交流した。
31.2.12～ 地域交流スポット楽	デイスポット楽で毎月第２週と第４週の火曜日の夕方に食堂とデイルームを開放し、地元の方や子ども達が集える場を設けた。
31.3.14 地域連続講座	伏見デイで訪問看護ステーション京都と協働して「地域の健康」をテーマに地域住民向けに医療と健康に関する講座を定期的に開催している。
31.3.21 親子で新幹線 Cafe	東野センターにおいて室内では工作やプラレール、スヌーズレン体験など、屋上では間近に大迫力の新幹線を楽しんだ。

（7）地域貢献として発足した京都ラクシヨーネが、30 年度運行件数 5,000 件を突破！

京都ラクシヨーネは移動に不安や困りをもつ人たちが住み慣れた地域で少しでも自由で豊かな生活を送っていただけるよう、移動のお手伝いをするため発足し、会員数も前年度末より９７名増加して 296 名となり、通院、施設利用、買い物、外出、会食、お墓参りなどに１日平均１４件と実に様々に地元の皆さんにご利用いただいた。また、ご利用の増加に伴い、31 年度からは専任の副主任を配置した。

３　利用者支援の充実

（1）利用者の受入希望に沿って、次のとおり施設を拡張してきた。

H24.8 開設	いたはし学園菓子工房新築　鉄骨３階建　延床 114 ㎡
H26.4 開設	らいと、ふしみ寮、放課後等デイ新築　木造２階建　延床 205 ㎡
〃	ふしみ学園分室、地域交流スペースひだまり新築　木造２階建　延床 181 ㎡
H27.10 開設	洛南障害者デイサービスセンター「あすなろ」新築（定員 20 名） 鉄骨２階建　延床 478 ㎡
H28.3 開設	ふしみ寮は、鍛冶屋町に木造２階建中古物件（延床 145 ㎡）を取得して、ふしみ寮の定員を４名増員、更にサテライト型住宅１室を賃借して定員１名増員
H29.4.開設	京都東野障害者福祉センター建設 デイサービス棟（重量鉄骨造２階建て　延べ床面積 1102.3 ㎡/333.5 坪） ・デイスポット「楽」（生活介護 20 名）新設 ・放課後等デイサービス「すてーじ」（10 名）新設 ・生活サポートセンター「ほっと」（居宅介護ほか）移転 ・京都市やましな学園分室（生活介護、就労Ｂ型）移転 ・京都市山科障害者デイ「ぶらんこ」分室（生活介護）移転 グループホーム棟（在来工法木造２階建て　延べ床面積 264.2 ㎡/ 79.9 坪） ・共同ホーム「あんど」（共同生活援助・男女各４名）拡張・移転 ・短期入所（空床型短期入所・男女各１名）新設
H30.5 開設	だいご学園ふらっと新築（木造２階建　延床面積 392 ㎡） パン製造所、販売店舗、喫茶、作業場設置

今後の対応（課題）

いたはし学園は建物が賃貸のため安定的な運営には不安が残り、且つ狭隘で老朽化しているために移転して拡張が必要になっている。また、伏見デイと伏見授産所も作業室が狭隘で、今以上の利用者受入が困難なため、近隣で分室を設置したいと考えている。

加えて、伏見エリアのご利用者や保護者の高齢化でグループホームの設置要望が高まっており、近隣に女性用のグループホームを新設したいと考えている。

（2）職員採用　　平成３１年４月１日付け　新卒正職員の採用５名、嘱託から正職員登用６名

※平成３１年４月１日の職員数　正職員１４２名、嘱託職員２５名　※正職員の育休４名含む。産休なし

（3）その他

・第三者評価の受診を、平成 24 年度から「京都介護・福祉サービス第三者評価等支援機構」に委託して、29 年度には２巡目を完了し、概ね全評価項目で A 評価を得た。30 年度は新設施設等で未受診施設の受診を予定したが、いずれも開業後の日が浅く受診準備体制が整わないため、31 年度受診に順延した。

31 年度予定	洛南デイあすなろ、放課後等デイらいと、デイスポット楽、放課後等デイすてーじの予定

・機能訓練プログラムを柔道整復師の資格を持つ本部主任が全施設を巡回して提供しており、ご利用者に好評で参加者も増えている。

30 年度実績	延 485 回実施、延参加者 3,001 人、平均 6.2 人/回

・人事評価制度を職員育成のために策定し、27 年度から実施しているが、より効果的な取組とするため、29 年度から全国で２千社以上の契約実績がある㈱あしたのチームに委託して新たな取組を試行した。

３０年度からは主任、副主任に拡大試行しており、31 年度も引き続き同社に委託して継続試行しているが、31 年度には一時金による報酬反映を予定している。　　**以　上**

京都市中部障害者地域生活支援センター「らくなん」（相談支援事業）

平成 30 年度は京都市内１５の委託支援センターで取りまとめた未決の広域課題について、中部地域障害者自立支援協議会の取り組みとして、それぞれの専門部会を中心に課題解決に向けての取り組みを行った。また、南区こころの健康を考える会支援者向け企画会議に参加をして、年１回開催している発表会・講演会の企画や、こころに病のある人が地域で安心して暮らすことを目指した取り組みなどのネットワークづくりを行っている。

【30 年度の相談傾向として】

■親の高齢化

今まで支援のキーパーソンだったご両親の高齢化に伴い、ご利用者の支援内容の変更や支援の増加が以前に比べ増加傾向である。またご両親の介護保険サービスの利用に伴い、ケアマネージャー等との連携も必須になってきている。ご利用者だけでなく、ご両親も含めた「家族支援」として支援を考えることの必要性を感じている。

■65 才を迎えて障害施策から介護保険へ移行される方の相談

今まで、障害施策で居宅サービスや通所施設を利用していた方が、65 才を節目に介護認定を受けた際に認定度が低くなって居宅サービスの時間短縮になったり、生活介護事業所を今まで利用していた事業所から介護保険の施設の利用になるとの不安の相談。

【相談支援内訳（年間）】

	制度説明	居宅生活		施設	地域移行	自立生活	教育保育	就労	福祉用具	住居	介護保険		医療	金銭管理	その他	合計	*29年度実績*
		居宅介護等	その他								居宅	施設					
身体障がい者	106	1854	25	137	0	8	0	2	120	71	72	4	414	31	1054	3898	*5146*
知的障がい者	24	498	109	400	0	8	0	47	18	54	24	0	385	182	2207	3956	*4584*
精神障がい者	42	221	6	39	0	6	0	25	24	22	0	0	93	42	336	856	*403*
重複障がい者	66	941	137	345	5	12	0	14	152	191	79	0	619	142	1968	4671	*5142*
障　がい　児	7	228	82	82	0	0	56	0	2	0	0	0	75	0	202	734	*270*
そ　の　他	0	7	0	8	0	0	0	0	0	2	0	0	21	21	68	127	*157*
合　　計	245	3749	359	1011	5	34	56	88	316	340	175	4	1607	418	5835	14242	*15702*

【京都市中部障害者地域自立支援協議会について】

設立当初より、圏域の他の支援センターとともに事務局として 30 年度は事務局長を担当した。専門部会（医療的ケア専門部会、児童専門部会、災害支援専門部会、グループホーム専門部会、相談支援専門部会）と地域課題研究会（旧困難ケース研究会）そして、12 月に就労支援事業所座談会立ち上げ、児童専門部会、災害支援専門部会、就労支援事業所座談会の事務を担当して協議会の活性化に向けて取り組みを行った。

【独自事業】

■ピアサポートサロン（毎週木曜　午後１時から３時ごろまで開催）

のべ９０名（実人数は１２名）の参加があった。身体障がい、精神障がいのメンバーが中心になった３０年度は、話し合いを中心に集まりを持った。「ピアサポートサロンだより」は毎月発行し、サロンには参加が出来ないが月初めの発行を楽しみにしてくれている元メンバーもいる。（２１９号～２３０号）

京都市東部障害者地域生活支援センター「らくとう」（相談支援事業）

基幹支援センター業務も７年目に入り、今年も研修会を実施した。加えて、山科子ども若者未来トークにおける「ファミリーホーム設立」準備委員会の発足や、東野地域交流スペースでの企画などを通して、障害福祉分野だけでなく地域住民や他業種と連携を密にして、「地域」で何ができるかを考え、そして実行を始めた１年であった。

■医療ケアの必要な方の相談

特に児童の相談が多くあった。就学前では、保育園がみつからない課題、児童発達支援事業所への送迎の課題、養護者の緊急時の支援体制の課題、そして進学・進路（地域の学校か支援学校か）の課題などなど。受け入れる資源が不足する中で、家族や学校、福祉、医療関係者と話し合いを重ねていった。

■被虐待児のその後(成人期)の相談

幼少期に虐待を受け、その後児童養護施設等で生活されていた方の地域生活支援。不特定多数の異性との交際、その延長上の妊娠、子育ての課題、金銭トラブル、自殺企図など複合的な課題を抱えた比較的若い世代の相談が多かった。

■触法障がい者への対応

今年も矯正施設からの退所支援を行った。また京都地方検察庁の社会福祉士や更生保護施設からの相談があり、不起訴時や出所後の地域生活支援を行った。

	制度説明	居宅生活		施設	地域移行	自立生活	教育保育	就労	福祉用具	住居	介護保険		医療	金銭管理	その他	合計	*29年度実績*
		居宅介護等	その他								居宅	施設					
身体障がい者	27	2295	35	79	0	9	0	8	181	112	116	10	611	50	1899	5432	*5989*
知的障がい者	47	1035	419	929	5	40	144	328	27	285	9	1	545	387	4548	8749	*11871*
精神障がい者	24	352	80	339	1	10	122	70	12	115	1	0	464	141	2171	3902	*3089*
重複障がい者	20	1200	372	556	5	3	12	21	46	171	1	1	618	58	2577	5661	*6657*
障　がい　児	36	574	54	219	0	6	629	17	4	14	0	0	206	74	1200	3033	*1927*
そ　の　他	6	3	0	5	0	0	1	5	1	4	1	0	30	18	153	227	*615*
合　　計	160	5459	960	2127	11	68	908	449	271	701	128	12	2474	728	12548	27004	*30148*

■京都市東部障害者地域自立支援協議会（事務局：らくとう）

東部障害者地域自立支援協議会の設立当初より、圏域内の他の支援センターとともに事務局として、今年度は会計を担当した。部会に関しては支援センター部会、触法障害者専門部会、児童部会、災害部会、グループホーム部会を運営した。新たな取り組みとして卒業前の保護者や教師に、地域の福祉資源を知ってもらうための取り組みとして事業所フェアを開催した。

■「らくとう」の独自事業　**あそびの広場**

山科区子どもはぐくみ室・山科区社会福祉協議会・らくとう・だんごやましなクラブの４つの機関が協力して「障がいのある子どもたちの余暇支援」「保護者同士の交流」を目的に「あそびの広場」を年４回開催した。昨年と同様に今年度も学区社協の協力を得られている事、参加人数についてボランティアの参加人数が増加している事から、障がい理解の啓発を含めた地域交流の場としても役割を担う事が出来ている。

京都市洛南身体障害者福祉会館

事業概要

京都市洛南身体障害者福祉会館では、設立の目的である「地域で生活する障がいのある人の憩いの場と交流の場」になるよう、各種行事・講習会・貸室・京都市重度障害者移動支援事業・京都市重度障害者入浴サービス事業・京都市就労に向けた障害者向けＩＴ教室等事業を実施した。

（１）会館利用者の増加を図るため、新規利用者の確保
（２）会館事業についての広報の充実
（３）地域貢献事業の更なる拡大

以上を目標に、会館が地域の福祉拠点となるよう運営を行った。

（１）について、平成３０年度の新規登録者は１７名（２９年度１５名）で増加となったが、利用延べ人数は４９，７２８名（２９年度４９，７５３名）となり、増加には至らなかった。

（２）では、ホームページの随時更新、会館だよりの毎月発行、各種事業の実施毎に関係機関や公共機関等へのチラシやポスターの配布を行った。行事についてはレクリエーションやイベント行事等で、概ね昨年度並の参加者があった。講習会では、各講習会の受講者を定員に達するまで増やすことを目標として、募集時期・広報方法・講習内容等の見直しを行ったが、５，１８７名（前年度５，３１４名）の受講生で目標達成には至らなかった。

（３）の地域公益事業では、合同会社 シシン様のご協力で「健康麻雀教室」を計 24 回開講、会館の一般利用者はもとより隣接する老人福祉センターの利用者、またご近所にお住いの方も多数参加頂き毎回１５名近くの方に参加を頂いた。また南区社会福祉協議会の「地域の方の居場所づくり活動」取り組みに賛同、南区地域介護予防推進センターと連携し、毎月第２金曜日に「大人のための頭塾」、第４金曜日に「マット運動＆室内スポーツ教室」を開講した。室内スポーツ教室では当会館のスポーツ講師が担当、障害者スポーツとして考案されたスポーツ種目を体験して頂き、楽しみながら理解を深めて頂けた。

７月には恒例の「地域ふれあい夏祭り」を開催。今回も模擬店の一部に近隣地域の飲食店、商店から食材を仕入れ販売を行う「地元のお店屋さんコーナー」を開設し、来場者に向けて地域のお店を PR する場とした。

また昨年に続き、ＪＲ西大路駅界隈の活性化を目的に結成された「西大路活性化プロジェクト」の皆さんが「地域の活性化にお役に立てれば」と参加を申し出られ「焼きそば」「焼き肉」やオリジナルのご当地カクテル「西大路ハイボール」の販売で祭りを盛り上げて下さり、今回も収益金の一部をご寄付頂いた。

単発講習会では、そのほとんどを地域の方も参加して頂ける「地域公益事業」と位置づけ開催。企業が取り組まれている CSR 活動も積極的に取り入れ、９月に「チーズセミナー」（雪印メグミルク主催）、１月には、「チョコレートセミナー」（株式会社 明治主催）を開催した。

３月末には地域の子供への情緒育成に貢献することを目的に、今回で６回目となる人形劇公演を開催。隣接の洛陽児童館の子供たちをはじめ、多数の地域の方の参加頂き、楽しい時間を過ごせて頂けた。

施設管理では、老朽化で使用不能となったトイレのエアコンの入れ替え、また屋上の防水シートの貼り替えを行った。

①年間利用状況

事業日数	実利用者人数	平均利用者数/日	備　　考
３０８日	４９，７２８人	１６１．５人	

②職種別職員数

区　分	管理者	支援員	計
常勤職員	１	２	３
非常勤職員		１	１

③事故、苦情

事　故	物損事故：なし	人身事故：なし
苦　情	な　し	

京都市洛南身体障害者福祉会館　多機能型事業（生活介護・就労継続支援Ｂ型）

事業概要

平成 30 年度に多機能型事業として力を入れたことは、外出レクリエーションなどの行事やプログラムについて、職員主導ではなく、利用者に行先や方法等を一緒に考えて頂くなど、利用者と職員が協同で物事を決定するスタイルを重視した。

上記を受けて、個別支援計画書作成のために利用者と担当職員で面談を行っているが、面談前に利用者アンケートを取り、利用者自身に多機能型事業ご利用の目的や目標を考えて記載頂くことで、より主体的な目標を設定することができた。また、「職員に気を付けてほしいこと、知っておいてほしいこと」の項目を作り、設備面の改善希望や職員への思いも記載頂き、利用者満足度の向上を図った。

平成 30 年度新たな取り組み

- 個別支援計画書作成のための利用者アンケート
- 月 1 回の土曜昼食調理に加え、毎月ミニクッキング（お菓子作り）を実施
- 運動プログラムでは棒サッカー・スクエアボッチャを導入

実績表

年間利用状況（期間：平成 30 年 4 月 1 日～31 年 3 月 31 日）

	事業日数	実利用者人数	利用率
生活介護事業（定員 10 名）	243 日	2,728 人	112.26%
就労継続支援Ｂ型事業（定員 10 名）	243 日	2,554 人	105.10%

① 職種別職員数：生活介護事業（平成 30 年 3 月末現在）

	管理者	サービス管理責任者	支援員	看護職員	医師	計
常勤職員		1	6			7
非常勤職員	1		5	1	1	8

職種別職員数：就労継続支援Ｂ型事業（平成 30 年 3 月末現在）

	管理者	サービス管理責任者	目標工賃達成指導員	職業指導員	支援員	計
常勤職員		1	3	1		5
非常勤職員	1				1	2

② 生活介護事業　利用者障害支援区分（平成 31 年 3 月末現在）

区分	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6
人数	0	0	3	6	6	5

③ 就労継続支援Ｂ型事業　授産事業の概要（期間：平成 31 年 4 月 1 日～31 年 3 月 31 日）

売上収入	支　出			差　引	平均支払い工賃額（月額／一人）
	必要経費	工賃（賞与含）	支出合計		
2,297,310	344,596	1,518,160	1,862,756	434,554	7,825

④ 事故、苦情

物損事故　　2 件	事故　　0 件	苦情　　0 件

高工賃と就労に向けてステップアップを求める利用者ニーズを受け事業運営を行いました。洛南エリアの災害対策委員会と連携しながら事業所の BCP 作成や備品の購入、学区の防災訓練への見学等、災害に対する取り組みにも注力しました。

１．授産事業について

当年度は、売上にして昨年度比約 12%増達成しました。印刷部門では昨年度同様に優先調達推進法の好影響を受け、官公庁からの受注が増加したことが要因として挙げられます。多様なカラー印刷に対応する為、オンデマンド印刷機の買い替えを行いました。受託部門においては売上額は微減となりましたが、利用者主体で作業出来る体制を整えました。
受注増により工賃支払い総額も増加し、平均工賃が４万円を超えました。

＜日帰りレク　ミシガンクルーズ＞

２．利用者動向について

31 名でスタートし、一般就労で２名、その他理由により１名が年度途中に退所されました。一方で支援学校からの新卒者等計２名の新規利用者の受け入れを行いました。通所率の兼ね合いで利用希望があってもお断りをすることが数回ありました。65 歳代の利用者が増えている背景を踏まえ、より生活面に配慮した対応が求められており、家族や関係機関との連携を強化し、柔軟に対応できるようしていきたいと思います。

３．就労支援について

今年度は２名が一般就労に結びつきました。１名は授産所に在籍したまま有期雇用されていた方が、期間満了後直ぐに一般就労に結びつき、もう１名は職場実習を通じ、介護現場への就職に結びつきました。２ 月には前年度に引き続いて、授産所から就労した方や現在利用中の利用者を交えてＯＢ会を開催しました。

＜水害避難訓練＞

４．その他（地域貢献事業）

地域コミュニティ紙「あーる・じぇい」を年１回発行、ワンコインパソコン教室を年８回開催。いずれも好評を得ました。社会福祉協議会の「チャレンジ就労体験を受諾しました。

①年間利用状況

事業日数	定員	在籍人数	実利用人数	１日当たり	利用率
266	20	30～32	6,594	24.8	123.5%

②職種別職員数

	管理者	ｻｰﾋﾞｽ管理責任者	職業指導員	生活支援員	目標工賃達成指導員
常勤職員	１（兼）	1	2	2	1
非常勤職員			5	4	

③授産事業の収支等

	収入	支出			差引	平均支払工賃額（月額）
	売上	必要経費	工賃	支出合計		
印刷部門	52,379,249	37,860,299	6,579,300	44,439,599	7,939650	46,662
受託部門	6,940,374	1,779,157	8,705,700	10,484,857	▲3,544,483	37,525
計	59,319,623	39,450,574	15,285,000	54,735,574	4,395,167	40,979

④事故、苦情

事故	物損事故	11 件	人身事故	0 件
苦情	なし			

平成30年度事業報告書

洛南障害者デイサービスセンター「あすなろ」（生活介護事業）

事業概要

平成３０年度は、支援学校を卒業された新規利用者を４名受け入れ、登録者数は３６名となった。開所から２年半が経過し、これまではほぼ全員が同じ部屋で一緒に活動していたが、年々利用者数が増え、部屋が狭くなってきたため、２階の活動室を使用しプログラムを分けることとした。多様化するニーズに応じ、個別のプログラムも実施するようになり、お一人お一人に合わせた、細やかな支援を行うことができた。一方で、卓球バレーやボッチャ、カラオケ等はほぼ全員が参加され、皆で一緒に活動するプログラムとして楽しんで頂ける機会を提供できた。

日々のプログラム以外にも、季節を感じるお花見や七夕縁日、節分等、を実施し、バレンタインデーには手作りチョコレートを調理した。外出行事は年２回行い、複数の行先からご希望を伺い少人数で楽しんで頂けた。クリスマス会ではシンガーソングライターの前田和亮さんに来て頂いてコンサートを実施し、洛南身体障害者福祉会館のご利用者も参加され、楽しい時間となった。

利用実績は、開所以来増加傾向にある。ショートステイ利用の為休まれたり、年度後半には長期入院する方もおられた中、最終的な利用率は約９３％を達成した。

実績表

①年間利用状況（平成30年４月１日～平成31年３月31日）

生活介護事業（定員20名）	事業日数	実利用者人数	利用率
	245日	4,554人	92.94%

②利用者障害支援区分（平成31年３月末現在）

区分	区分１	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６
人数	0	0	0	0	7	28

③職種別職員数（平成31年３月末現在）

	管理者	サービス管理責任者	支援員	看護職員	医師	計
常勤職員	1	1	5			7
非常勤職員			8	3	1	12

④事故、苦情

車両物損事故	車両人身事故	支援中の事故	苦情
18件	1件	7件	0件

平成 30 年度事業報告書
京都市伏見障害者デイサービスセンター（生活介護事業）

1．事業内容

伏見障害者デイサービスセンターでは平成 30 年度も引き続き、安定した施設運営を続けることができた。内容的には、利用者および家族の高齢化が進む中、家庭の事情で施設入所された方もおられる一方、そうした利用者や家族が地域で暮らし続けられるようにするための支援を数多く行なった。将来の生活に不安を抱える利用者や家族に寄り添い、本人や家族にとって望ましい生活を一緒に考えたり、関係機関と連絡調整をしたりしながら、当施設への通所を通じて本人・家族が地域での暮らしを継続できるように様々な形で尽力している。

2．支援や取り組みについて

平成 30 年度も、これまでに続き安心安全で快適な活動スペース、利用者それぞれのニーズや障がい特性に応じた活動環境や活動内容を整え、楽しく心地よく、内容豊かな日中活動の実現に努めた。

近年力を入れてきた創作活動に加え、今年度はオリジナルのカードゲームやボウリング用具なども開発し、様々な障がいがあっても主体的に参加し、自己実現を図れるような活動を目指した。

また分室では、取り組みを続ける中で自分なりの意見を提案したり、相手の思いを受け止めたり、仲間をいたわったりする雰囲気が芽生え、望ましい人間関係を築く力をつけることにも繋げることができた。

〔創作活動の作品を芸術祭に出品〕

3．主な行事、地域における公益的な取り組みや実績など

当施設は“地域に根ざした施設運営”を掲げており、今年度も地域の小学校での「車いす体験事業」に職員・利用者が出向いて啓発活動を行なったほか、恒例行事となっている「お楽しみ会」を今年度も開催し、多くの人が楽しめるような企画を通して当施設や利用者について知ってもらう機会を設けることができた。また“総合福祉センター”というスケールメリットを活かし、今年度も地域の訪問看護事業所との共催で高次脳機能障がいや認知症等に関する無料の講座を開き、地域の方を対象とした公益活動も行なった。

〔別室・調理活動の様子〕

〔お楽しみ会の様子〕

4．研修・訓練等

職員の資質や専門性向上のため、今年度も内外の研修に参加。また施設の特徴である包括支援を念頭に、サービス管理責任者等の研修も順次受講した。

5．設備改善等　　今年度はなし。

6．その他

①利用状況

事業日数	在籍人数	総利用者数	一日平均	利用率
270 日	39 人	5,132 人	19 人	95%

②職種別職員数

	管理者	サービス管理責任者	生活支援員	看護師	嘱託医	計
常勤職員		1	3	1		5
非常勤職員	1（兼務）		14（換算 7.1）	1（兼務）	1（兼務）	17

③事故・苦情

物損事故	人身事故	支援中の事故	苦情
0 件	0 件	3件	0 件

平成 30 年度事業報告

京都市伏見障害者授産所（就労継続 B 型）

① 事業内容

平成30年度は就労継続Ｂ型事業所として利用者の能力を最大限発揮してもらえることを念頭に置き支援を行いました。また、作業を通して工賃を得るという達成感を味わってもらう支援を行いました。また、生活面においても困難な事例を含め各種の相談に応じご家族や各種関係機関と連携を取ることで地域において支障なく生活が出来るようにしました。

② 授産事業

平成 30 年度も工賃の向上を目指し様々な作業に取り組みました。結果、前年度に比べて増収・増益を達成することが出来ました。また、作業を通して満足感とやりがいを感じてもらえるよう様々な事業に力を入れました。さらに、分室を利用することで落ち着いた状況で作業に集中出来る環境を設定しました。

③ 利用者支援

平成30年度は４月に２年ぶりに支援学校卒業生を新たに迎え入れることが出来ました。しかし、1 名の方が高齢から来る体力の衰えにより自力での通所が困難となった利用者の方が同法人の他施設へ移られることとなりました。また、今年度もワークショップを開催し、昨年度から開始した創作活動では「とっておきの芸術祭」に出展することが出来、満足感を得て頂くことが出来ました。さらに生活面においても各関係機関と連携し安心して生活していただけるよう支援しました。

① 年間利用状況

事業日数	定員	在籍人数	実利用人数	1 日あたり	利用率
257 日	14 人	18 人	4,021 人	15.68 人	112%

② 職種別職員（人）

	所長（兼務）	サービス管理責任者（兼務）	生活支援員	職業指導員	目標工賃達成指導員	嘱託医（兼務）
常勤職員	1 名	1 名	1 名	1 名	1 名	
非常勤職員				1 名（常勤換算 0.6）		1 名

③ 授産事業の収支等

区分	収入額	支出額		差引	平均工賃
		経費	工賃		
印刷事業	10,114,713	9,223,404	976,600	-85,291	27,127
そ の 他	4,700,036	879,221	3,381,600	439,215	20,128
計	14,814,749	10,102,625	4,358,200	353,924	21,363

④ 事故、苦情

事故	物損事故：なし	人身事故：なし
苦情	な し	

⑤利用者の障害程度区分（人）

区分１	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６	未申請
0	2	5	7	2	0	2

平成 30 年度事業報告

京都市伏見障害者授産所（生活介護型）

① 事業内容

平成30年度も生産型の生活介護事業所として作業を中心とした活動を行い、作業を通して利用者の方の可能性を高める支援を行いました。さらに、作業だけではなく個別にプログラムを設定することで利用者の方が心身ともに落ち着いた状態で日々を過ごして行けるような支援を心がけました。グループプログラムにおいても利用者の方の思いを大切にし外出などの行先を一緒に決めより満足感を感じて頂ける支援を行いました。また、生活面においても困難な事例がでた場合において相談に応じご家族や各種関係機関と連携を取ることで地域において支障なく生活が出来るように取り組みました。

（作業支援）

作業支援としては、生活介護事業所でありながらも高工賃の実現を目指し、各作業において積極的な受注・営業活動に取り組んだ。また今年度は分室の利用回数を増やして行き利用者の変化に対応した環境の設定を行い、より集中して自らの能力を最大に発揮できるように支援しました。１対１で対応する事で作業の幅も広がり達成感を感じる支援を行うことができました。次年度以降も利用者の方のやりたいという気持ちを大切にして可能性を広げる支援を行います。

（生活支援）

平成 30 年度は 4 月に総合支援学校の卒業生を１名迎え入れることが出来ました。さらに年度末には一般の高校を卒業された方が 4 月を前に利用開始となり 2 名の増員となりました。また、今年度も引き続きプログラム活動を充実させることが出来ました。個別プログラムにおいては普段一人ではなかなか出来ないことなどをテーマにして編み物や歩行訓練などを職員とともに実施しました。さらに、生活面での支援においては、今年度も相談支援事業所と連携し、新しい制度の利用など、「将来を見据えた地域での生活」を円滑に行なえるように支援を行いました。

② 年間利用状況

事業日数	定員	在籍人数	実利用人数	１日当たり	利用率
248 日	６人	12 人	1,722 人	6.96 人	116%

③ 職種別職員（人）

	所長（兼務）	サービス管理責任者（兼務）	生活支援員	看護師（兼務）	嘱託医（兼務）
常勤職員	１名	１名	４名（常勤換算 3.9）	１名	
非常勤職員			２名（常勤換算 0.4）		１名

④ 事故、苦情

事故	物損事故：なし	人身事故：なし
苦情	な　し	

⑤ 利用者の障害程度区（人）

区分２	区分３	区分４	区分５	区分６
0	0	0	4	8

平成３０年度　　事業報告
生活サポートセンター『とらい』
（居宅介護　重度訪問介護　行動援護　同行援護　移動支援）

事業概要

利用者が居宅において自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう、利用者の身体その他の状況及びその置かれている環境に応じて、「入浴、排せつ及び食事等の介助」「調理、洗濯、掃除等の家事」「生活等に関する相談・助言」「移動の支援」「その他の生活にわたる援助」を適切かつ効果的に行うようにつとめた。居宅介護事業所は、障がいのある人にとって、とりわけ一人暮らしやご家族が高齢になってきた人にとっては、より充実し安心して地域生活を送るために重要な役割を持っている。より一層、安全で質の良い支援を提供できる体制づくりに努めたい。

年度の後半より、重度の身体障がいがある方が、ご家庭の事情により、一人暮らしを始められた。グループホームふしみ寮の体験入居やショートステイの利用を経て経験を重ねながら、生活全般について相談や支援を行い、スムーズに一人暮らしを始めることができた。以前よりも自立し充実した生活と感じていただいている様子。

今年度の派遣時間は前年度とほぼ変わらずであった。内訳でみると、行動援護が年間 250 時間の増加で、移動支援が年間 250 時間減少している。どちらも基本的に外出の支援であり、支援の内容としては、ほぼ前年度と同様であったといえる。

給付費等の収入は微増で、年間で 70 万円増加している。これは行動援護が移動支援より報酬が高い影響などによるもので、ここからも支援の内容や時間がほぼ前年通りであったと言える。

安定した事業運営を行うため、今後も従業者数に見合った、収入確保がされるように、派遣時間の確保に努めていきたい。

通院やショートステイの送迎など、低額料金で車での移送を行う福祉有償運送を実施した。平成３０年度は、503 回の支援を行った。ヘルパーでの支援を並行して行い、利用者の活動範囲を広げることができた。積極的に講習を受講し、支援体制を整え、継続的に支援できるようにしていきたい。

①年間利用状況

事業日数	派遣時間（１月平均）			派遣件数（1 日平均）	
	介護給付費	地域生活支援事業	合計	介護給付費	地域生活支援事業
365 日	600.0	473.3	1,073.3	12.7	7.9

②利用者の内訳（平成 31 年３月利用：重複あり）

身体介護	家事援助	通院等介助	重度訪問介護	行動援護	同行援護	移動支援･伴う	移動支援･不伴
10 人	５人	５人	２人	14 人	１人	39 人	６人

③職種別職員数（平成 30 年３月）

管理者	サービス提供責任者	常勤ヘルパー	登録ヘルパー
１人	３人	３人	19 人

④事故・苦情

事故	０件
苦情	０件

平成３０年度　事業報告

グループホーム「ふしみ寮」　　共同生活援助

事業概要

今年度は利用者の入れ替わりはなく、ご利用者の様子にも大きな変化はなく、全体的に安定して過ごしていただけていた一年であった。また、平成 29 年度に、体験入居等に活用する目的で、定員を増やしていたが、体験入居としては 2 人の方で計 41 回のご利用であった。内 1 人の方が体験入居の経験を活かし、12 月から一人暮らしを始められた。

サテライト型については、朝夕に訪問し支援し、安定した生活を送っていただけていた。しかし、12 月 5 日に腹痛の訴えがあり受診をしたところ、緊急手術・入院となった。12 月 19 日に無事退院され、後遺症などなく元の生活に戻っていただくことができた。その方は、平成 30 年度中に、共同生活援助の支給決定が切れ介護保険制度での支援への移行予定であったが、この入院のため、介護保険よりも支援体制の手厚い共同生活援助での支援を継続することとなった。平成 29 年 4 月にも入院されており、健康面での注意が必要である。また、将来的には、介護保険制度での支援が見込まれている。支援量が大幅に低下することになるので、介護保険制度への移行を見込んだ支援体制の検討が課題となっている。支援の面では、日中活動のための活力を保つ生活の場であることを意識し、利用者がゆっくりと過ごせる支援を心掛けた。

桜を見ながら花見団子

七　　夕

避難訓練

①年間利用状況

ふしみ寮桝形町　及び　ふしみ寮鍛冶屋町

事業日数	定員	在籍人数	延べ利用人数	平均利用者数
308 日	９人	８人	2443 人	7.9 人

サテライト型

事業日数	定員	在籍人数	延べ利用人数	平均利用者数
349 日	１人	１人	349 人	1.0 人

②利用者の障害程度区分

区分１	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６	計
			１人	５人	３人	９人

③職種別職員数（平成３０年３月）

職種	配置人数	常勤換算
1. 所長	１名（兼務）	
2. 副所長	１名（兼務）	
3. サービス管理責任者	１名（兼務）	
4. 世話人	１３名（兼務）	２．０
5. 生活支援員	１５名（兼務）	２．３

④事故・苦情

事故	１件
苦情	なし

平成３０年度　事業報告

放課後等デイサービス『らいと』　　放課後等デイサービス

事業概要

「児童福祉法」の理念に基づいて、学校通学中の障がい児に対して、放課後や夏休み等の長期休暇中において、生活能力向上のための支援を継続的に提供することにより、学校教育と相まって障がい児の自立を促進するとともに、放課後に充実して過ごせる場となるように取り組んだ。

昨年度に引き続き、プログラムの充実に重点的に取り組み、家族からも希望の多かった公園などでの外遊びや学習の時間など、個別にあったプログラムを重視して取り組んだ。プログラム活動時は、安全を第一に考え、環境設定やプログラムなどを工夫して支援を行った。

前年度までの報酬を前提として二人以上の加配を行い、手厚いサービス提供を行って来た。今後も、必要な人員確保をしつつ、適正な運営を行い、支援の内容を充実して、利用者から選ばれる事業所となるように努めていきたい。

創作活動

料理

学習

外遊び

①年間利用状況

事業日数	定員	在籍人数	延べ利用人数	平均利用者数	利用率
２９２日	１０人	２９人	２７２２人	９.３人	９３.２%

②利用者の年齢・性別

	男	女	計
小学生（低学年）	２	０	２
小学生（高学年）	１０	２	１２
中学生	５	４	９
高校生	５	１	６
計	２２	７	２９

③職種別職員数（平成３１年３月）

職種	配置人数	常勤換算
１．管理者（所長）	１人（兼務）	
２．児童発達支援管理責任者	１人（常勤専任）	１人
３．常勤支援員	８人（常勤２人・兼務３人）	３．１人
４．時短支援員	２人（非常勤２人）	０．７人

④事故・苦情

支援に関する事故	１件　　見守り不備による利用者の怪我、通院。（受診結果異常なし）
車両事故	１件　　物損
苦情	０件

京都市ふしみ学園（生活介護生産型）

平成 30 年度はこれまでの事業を継承しつつ、法人全体で始められた「気付き提案制度」に沿って職員から出される業務改善提案（年間 331 件）に積極的に取り組み、利用者支援においても、職員の働き方についても大きな変化はないが多くの改善に繋げ、多くの職員と協議し、支援の質の高い施設作りに努めた。

大きな活動の柱は次のとおり。

まずは５つある班体制の各班の方向性を職員で検討し、改めて各班それぞれの特色づくりを行った。活動の内容を作業中心にする班や主に療育的なプログラムに取り組む班、利用者の自己決定・自己選択を支えるよう多様な経験を積むためのプログラムを行う班、絵画等の作品作りを中心に行う班など、定員 55 名の大規模施設であるからこそ各班に特色づくりを行い、多様なニーズを受け止め、利用者の毎日が有益なものになるように努めた。次年度以降は打ち出した方針を基に更に少人数化にするため、５班体制から７班体制に再編し、更に質の高いプログラムと支援の提供がなされるよう研鑽を深めたい。

また「仲間の会」と称し、利用者主体の話し合いの場を定期的に設けた。利用者が実現したいことを意見し、それを可能な限りに実現し、楽しむ機会を提供する。そうした利用者の成功体験を積みながら、生活を豊かにしていく取り組みを継続的に行った。

次に「利用者工賃」と「職員の休憩取得」について、それぞれに職員数名で構成するワーキンググループを立ち上げ、ほぼ１年間をかけて検討を重ねてきた。

利用者工賃については先述のとおりに、作業従事中心の班とプログラム中心の班等があることから、作業意欲向上のために作業成果に比例して工賃支給がなされるように仕組みを整え、新年度４月分より改訂予定である。

職員の休憩取得については利用者の障がい特性上、常時の見守りを要することから、休憩取得が難しい背景があったが、見守りに必要な職員配置を検討することで休憩取得ができる仕組みを整えた。

最後に職員の資質向上とスキルアップを狙い、法人内の交換研修の他にも、他法人との交換研修や見学を行った。延べ 30 人の職員が８箇所の施設に出向き、他所の取り組みを学び、また比較することで自事業所を評価し、更なる取り組みに繋がるべく、多くの気付きを得ることができた。

上記のとおり職員全体で協議しながら、少しずつではあるが「学園のあり方」に小さな変化を起こした１年であったと振り返る。

籍数	60 人	入園者数	2 人
平均利用者数	50.4 人	退園者数	2 人
稼働日数	254 日	平均利用率※	91.6%
延利用数	12,793 人	余暇支援日数／述人数	11日／320 人

H31.3.31 現在

平成 30 年度報告

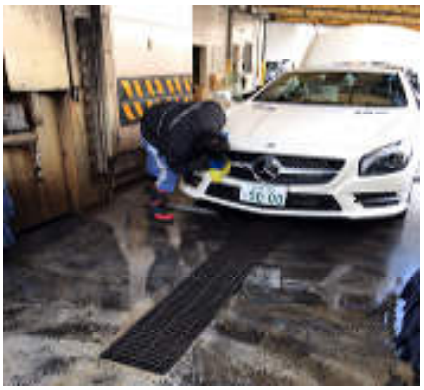
京都いたはし学園

就労移行支援事業(定員８名)

平成３０年度は報酬改定の影響を受け、大幅な減収となり非常に苦しい運営を強いられた。そんな中、就労支援ではクローズ就労を含む４名の方が就労され、また次年度に内定を頂いた方が２名おられるなど、大きな成果があった。一方で、昨年度のような年度途中の新規利用が多くなく、利用者確保の課題が浮き彫りになった。利用希望者は精神疾患のある方が多くなっており、事業体制上マッチングしないケースもあり、ニーズに対しどのように対応していくか検討する必要があった。この課題は次年度以降の引き続くものと考えられ、所内の体制を整えていく必要がある。

定着支援では『就労定着支援事業』の申請を行い、指定を受けた。年度末の時点で利用者は５名であるが、事業の対象となっていない方に対しても、継続して定着支援は行っており離職者は0名であった。一般就労後の支援は目の行き届かない面もあるが、その方のライフスタイルに合わせた支援を継続して行いたい。

在籍数	11 名
稼働日数	303 日
延利用数	1,948 名
入園者数	6 名
退園者数	7 名
平均利用率	80.9%



就労継続 B 型支援事業(定員 12 名)

報酬改定により『平均工賃』がクローズアップされたが、当事業においては前年度並みの収入を維持することが出来た。しかし、事業の維持継続にはコストカットが求められ、その結果売り上げも大幅に減少した。利用者方への工賃は平均工賃並みを維持出来たが、利用者が増えている傾向にあり、自主製品の売り上げ増が必要となっている。

元々、定員を超える利用者数であったが、就労移行同様に精神疾患のある方の入所希望があり、週２～３回程度の利用が増えた。利用を継続する中で、不安定になられることもあり、登録はあるもののほとんど利用できていない方もおられる。そういった方への対応も試行錯誤を重ねながら実施し、お一人お一人の『働く』について考える年となった。

製パン、製菓では売り上げの減少を挽回しようと、新商品の開発や新規販売先への出店を行った。大きな成果にはまだ繋がっていないが、継続した課題のため、その解決に向けた取り組みを職員一同で考え行っていきたい。

在籍数	18.17 名
稼働日数	302 日
延利用数	3,940 名
入園者数	4 名
退園者数	0 名
平均利用率	108.9%

平成３０年度事業報告
京都市山科身体障害者福祉会館

平成３０年度は既存の事業の取り組みを、より利用者目線に立ったものにしていくための見直しを行いました。

定期講習会事業では、パソコン講習会の２講座をリニューアルし、パソコン初心者から上級者まで幅広く対応できるよう講座の体制を整えました。また、講師の体調不良などにより講座の健全な運営が難しくなってきていた書道教室では、受講者の意向を確認しながら講師と話し合いを行い、次年度に新たな講師を迎え教室のリニューアルを行うことができました。

【ドライブレコーダー設置の様子】

備品整備の面では会議室に設置されたヒアリングループをより有効に活用してもらえるよう、タイピン型のワイヤレスマイク、イヤーフックマイクを新規に購入しました。また、安全運転の意識向上、事故防止への活用、万が一の事故の検証などのため、施設の保有車両全てにドライブレコーダーを取り付け、安全対策の向上を図りました。

例年好評を博している外出レクリエーションは、春に「近江八幡水郷めぐりとラ・コリーナの旅」を企画し、遊覧船からの新緑の景色とお買物を楽しみ、秋には「宝塚歌劇鑑賞の旅」を催行し、宝塚歌場での観劇を楽しんでもらいました。

年間利用者数は、前年度比約２％増の 48,435 人でした。定期講習会や貸室利用についてはほぼ前年度と同様の利用者数でしたが、好天に恵まれた「やったね！秋まつり」の来場者数の増加が利用者数をわずかに押し上げました。

利用者の高年齢化も進んでいるため、施設利用状況の変化などの分析を行い、今後の施設のあり方、事業展開の方向性について改良を重ね、さらなる事業の充実・発展に努めていきたいと思います。

【外出レクリエーション　近江八幡】

【年間利用状況】　　（人）

事業日数	実利用人数	１日当たり
308 日 (308 日)	48,435 (47,467)	157.3 (154.1)

（　）内前年度

【会館利用者数内訳】　　（人）

会議室Ａ	会議室Ｂ	ボランティア室	調　理　室	食　　堂	ロビー	喫茶・図書ロビー	休養室	入浴室	合　計
9,199 (7,187)	3,506 (5,972)	848 (1,109)	2,702 (3,028)	10,044 (10,339)	4,501 (4,529)	13,539 (11,658)	2,875 (2,713)	1,221 (932)	48,435 (47,467)

平成３０年度事業報告
京都市山科身体障害者福祉会館（生活介護事業）

【概　要】

前年度の利用者アンケートで、祝日に開所したら通所するかどうかを尋ねたところ、全員から通所するという回答を得られたことから、平成３０年度４月より、これまで休所としていた祝日を開所日に変更しました。利用者からは、「祝日も普段どおりの過ごし方ができるようになり、うれしい。」、「祝日の生活が安定した。」、「家庭での介護負担が軽減された。」など、祝日が通所日になったことを歓迎する多くの声が寄せられました。祝日は機能訓練は行わず、映画鑑賞などの軽いプログラムを取り入れ、平日よりもゆったりと過ごせるように配慮しました。祝日になると崩れていた入浴のローテーションも安定するようになり、年間を通じて祝日も普段の平日と変わらない利用がありました。

また、３０年度は新たに９名の利用者の受け入れを行い、登録人数は大幅に増加しましたが、利用回数の少ない方が多く、利用率の伸びは人数の割に小さめでした。定員の充足にはまだまだ余裕があるため、今後も新規利用者の受け入れを積極的に行い、利用ニーズに応えていきたいと思います。

日中活動については、創作活動を中心として、折り紙・貼り絵・アイロンビーズ・ビーズアクセサリー・絵画・ブロック・プラモデルなど、様々なものに自由に取り組んでもらいました。創作活動で作った作品は、秋まつりで販売したり、廊下などに掲示したりし、多くの人に成果を見てもらいました。また、卓球バレー大会前には卓球バレーの練習を行ったり、プライベートでボッチャの大会に出場する利用者はボッチャの練習をしたりし、スポーツにも積極的に取り組みました。

【１日外出】

【卓球バレー大会】

【クリスマス会】

【年間利用状況】

事業日数	定員	在籍者数	実利用者数	１日当たり	利用率
256 日	20 名	27 名	2,822 名	11 名	55%

【利用者の障害程度区分】

区分１	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６	計
０名	０名	３名	５名	６名	13 名	27 名

【職種別職員数】

区別	管理者	サービス管理責任者	生活支援員	看護師	嘱託医	計
常勤職員	１名	１名	６名			８名
非常勤職員		１名	４名	２名	１名	８名

平成３０年度事業報告書
福祉有償運送　京都ラクシヨーネ

【概　要】

山科のラクシヨーネの３０年度の年間総運行件数は前年比２３％増の 5,058 件。会員数も２９年度の 199 名から 296 名へ 97 名増加しました。また、昨年 1 月に開所した京都ラクシヨーネ伏見の会員数も 27 名に増加。生活サポートセンター『とらい』の利用者のショートステイの送迎を中心に年間 503 件の運行を行いました。

新規利用については、ケアマネジャーや病院からの紹介で来られる方も多く、地域の移送サービス資源として周知が広がり、サービスの定着がさらに進んできています。

利用目的では会館利用と通院が多く、特に通院の足がない方の利用が増えています。また、買い物、スポーツセンター等の施設利用、会食、ショートステイ、知人宅への訪問、お墓参り、銀行まわり、カラオケなどでの利用件数も増えています。

車両については、山科で車いす用リフトの故障により軽自動車 1 台の買い替えを行った他に、車いす対応の普通車 1 台を中古で購入。伏見においても普通車２台を増車しました。古い車両のリフトや固定装置の故障も発生するようになっており、車両の更新は今後の課題です。

福祉有償運送の利用ニーズは年を追うごとに高まってきており、対応力も限界に近づいてきていますが、できる限り多くの人にサービスを届けられるよう人員体制の見直しも行いながら、さらにサービスの充実と安全運行の向上に努め、移動に困ったり、不安を感じたりする人たちの気持ちを少しでも和らげ、障がいのある人やその家族が住み慣れた地域で安心して、少しでも自由で豊かな生活を送っていただけるよう、移動のお手伝いを通して地域に笑顔を増やしていきたいと思います。

車両台数および会員数　　（（）内前年度）

事務所	自動車台数	会員数				
		身障	要介護	要支援	その他	合計
京都ラクシヨーネ	10 (9)	201 (164)	35 (20)	15 (1)	45 (14)	296 (199)
京都ラクシヨーネ伏見	5 (3)	23 (10)	0 (0)	0 (0)	4 (6)	27 (16)
合　　計	15 （12）	224 （174）	35 （20）	15 （1）	49 （20）	323 （215）

運行実績　　（（）内前年度）

	京都ラクシヨーネ	京都ラクシヨーネ伏見	合計
サービス走行キロ	25697ｋｍ （20269ｋｍ）	4231ｋｍ （851ｋｍ）	29928ｋｍ （21120ｋｍ）
輸送人員	8637 人 （5189 人）	593 人 （105 人）	9230 人 （5294 人）
運行回数	5058 回 （4142 回）	503 回 （96 回）	5561 回 （4238 回）
運送収入	3727 千円 （2885 千円）	557 千円 （112 千円）	4284 千円 （2997 千円）

平成 30 年度事業報告

京都市山科障害者授産所
（就労継続支援Ｂ型事業）

◆事業概要

今年度も積極的に見学や実習を受け入れ、新たに 3 名の利用者を迎え入れたことにより年度の在籍者は １3名となった。

しかし、その一方で長期の入院や病状悪化のために退所する利用者もあり通所率は伸びなかった。

今年度は精神や視覚に障がいのある方、生活保護受給者に対する支援事業で来られた方などの受け入れを行った。

また、必要な場合には医療機関へ同行するなど、支援センターや社会福祉協議会、行政などと連携を取りながら、安定した日常生活を送ることができるよう、個々の特性に合わせた支援を行った。

印刷業務においては、オンデマンド印刷機が台風２４号の被害に遭い、天井からの水漏れが原因で修理が不能な状況となった。10 月以降の受注の殆どは、法人内の印刷機を保有する施設に協力を仰いだりしながら受注の維持及び収入の確保に努めた。

3 月末には洛南授産所からオンデマンド印刷機の移管を受け 4 月から所内で印刷を再開することができるようになった。

自主製品業務においては、地域交流とオリジナル商品の販売を目的に地域のイベントにも積極的に参加した。オリジナル商品の販売だけで売上げが見込めないイベントにおいては、季節に合わせた食品の販売と合わせて行い、売り上げを増やすことができた。

次年度も行政や社会福祉協議会、自立支援協議会、ネットワークなどと協力しながら地域の滞在的なケースの把握に努め、生活困窮者や困難なケースの受け入れをさらに推し進めていきたい。

◆事業実績

① 年間利用状況（平成３０年度４月～平成３１年度３月）

事業日数	定員	在籍人数	実利用者数	１日あたり	利用率
244 日	10 名	13 人	2,176 人	8.9 人	89.2%

② 職種別職員数

所長（兼）	サービス管理責任者（兼）	生活支援員	職業指導員	目標工賃達成指導員	嘱託医	計
1	1	1	1	1	1	6

③ 授産事業収支

事業内訳	収入	支　出		収支差額
		工賃	経費	収支
印刷事業	2,426,114	1,384,845	40,138	1,001,131
受託事業	970,446	553,300	0	417,146
自主製品事業	69,318	39,500	0	29,818
積立取崩	4,461,473	0	0	4,461,473
利息/積立	21	0	0	21
合計	7,927,372	1,977,645	40,138	5,909,589

④ 事故・苦情　　なし

平成 30 年度事業報告

京都市山科障害者授産所
（生活介護事業）

◆ 事業概要

年間を通して積極的に見学や実習の受け入れを行い、新規に３名の利用者を迎えることができた。

今年度も病状の悪化により長期入院するケースや、医療的ケアなどが必要となるケースもあり、通所率は思うように伸びなかった。退院時には授産所が中心となって病院や訪問看護ステーション、居宅事業所、家庭等と情報共有を図りながら、安定した在宅生活を送るための支援を行った。

精神面の支援が必要な利用者も多く、環境面に配慮するとともに、状態に合わせて随時面談の機会を持つなど、個別に支援を必要とする場面が多くあった。また、必要に応じてご家族や関係機関などと連携を取りながら相談を受けたり、助言を行うなどし、地域で安定した生活が継続できるように配慮した。

レクリエーションプログラムでは、年度当初に利用者と話し合いを行い、年間のスケジュールの確認を行った。
レクリエーションへの参加人数が増えたため、利用者全体で参加する行事は所内で実施し、施設外で行うレクリエーションは小グループで実施した。

当初祝日のレクを数回実施する予定であったが、休日や祝日は自宅で休息したいという希望者が多く人数が揃わないこともあり、年度後半は平日の外出を増やすこととなった。

利用者の健康管理としては、冬場の感染症が発生する時期には日常的に消毒を小まめに行うなど衛生面にも配慮するとともに、利用者にインフルエンザの予防接種を受けるように繰り返し呼びかけ、冬場の集団的ウイルス感染の発生防止に努めた。

次年度も日常的なバイタルチエックを実施するとともに家庭や看護師などと連携を取り、利用者の健康保持に努めたい。

◆ 事業実績

① 年間利用状況（平成３０年度４月～平成３１年３月）

事業日数	定員	在籍人数	実利用者数	１日あたり	利用率
２４４日	１０人	１４人	2,682 人	10.9 人	109.9%

② 職種別職員数

所長(兼)	サービス管理責任者(兼)	生活支援員(常勤)	生活支援員(非常勤)	看護師	嘱託医	計
１	１	３	５	１	１	１２

③ 利用者障害区分

区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
―	―	2人	6人	6人	0人	14 人

④ 授産事業の収支

事業内訳	収入	支　出		収支差額
		工賃	経費	収支
印刷事業	5,803,247	1,581,450	3,848,641	373,156
受託事業	1,077,191	631,700	673,202	▲227,711
自主製品事業	3,000,455	44,600	2,135,930	819,925
積立取崩	620,513	0		620,513
利息/積立	40	0	0	40
合計	10,501,446	2,257,750	6,657,773	1,585,923

⑤ **事故・苦情**　なし

平成３０年度　事業報告書

京都市山科障害者デイサービスセンター　(生活介護事業)

◇概要

今年度は６月の大阪府北部地震や９月の台風に伴う集中豪雨等、大きな災害が続き、緊急時における対応についての様々な課題が浮き彫りとなった。災害発生後、交通機関が止まり、職員が出勤できない状況があったり、通信網の混線で職員間やご家庭と電話で連絡が取れないケースもあった。予定変更の難しい利用者の方にとっては、度重なる臨時休所の為、混乱された利用者の方もおられ、ご家庭と相談しながら、急な臨時閉所について理解していただけるような支援方法の必要性も感じた。今年度の災害を教訓に、緊急時における様々な体制整備を早急に行っていきたい。

また、強度行動障害をお持ちの方が１０月より京都式強度行動障害モデル事業を利用された。この事業を通し、専門的な立場から個別支援についてのアドバイスを多く受け、ご本人の障害特性に合わせた様々な環境設定を行い、実践することができた。今後も他事業所と連携しながら、ご本人を中心としたより良い支援を進めていきたい。

◇主なプログラム

運動、リラックス、ワーク、園芸、音楽、創作、室内レクリエーション、茶話会、創作等

◇あんずルーム

少人数でゆったりした環境の中、個々の利用者にあわせ、スヌーズレンルームの利用や周辺の散歩やストレッチ、創作活動を行った。

◇主な行事

〇花見・歯科検診・健康診断・秋まつり・クリスマス週間・初詣・避難訓練
〇一日外出（年２回実施）
①7月・８月　宇治植物園、カラオケ、高野プール、青少年科学センター
②1 月・2月　ホテルランチバイキング、京都鉄道博物館、京都水族館
〇半日外出（年１回実施）　１０月・１１月　ティータイム週間

（創作　壁紙づくり）

◇ボランティア　年間延べ人数：　１０１名（月平均８名）

◇事故・苦情　利用者の係わる事故　０件　運転事故３件　苦情０件

①年間利用状況

事業日数	定員	在籍人数	実利用者数	一日あたり	利用率	備考
２９１日	２０名	２９名	4,８４２名	１６．６名	８３．２%	

②利用者の障害支援区分（平成３０年３月現在）

区分１	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６	計
０名	０名	０名	３名	８名	１８名	２９名

③職種別職員数

区分	管理者	サービス管理責任者	生活支援員	看護士	嘱託医	計
基準配置	１名	１名	１０名	１名		１３名
常勤職員		１名	６名			８名
非常勤職員	１名（兼務）		６名（内兼務２名）	１名（兼務）	１名（嘱託）	９名

昨年度に引き続き、ご家族の病気等で学園の利用を続けることができなくなり、他施設へ移行された方や、ご利用者が逝去される等、寂しいお別れがあった。今後もご利用者自身の高齢化や障がいの重度化、またご家族の高齢化などの理由による他施設への移行が続くものと考えられる。ご利用者の意思を尊重しながら、ご家族や関係機関との連携を図り、できるだけスムーズな移行を支援していきたいと考える。

生産活動については、金声堂、信防エディックスの売上が昨年度を大幅に上回っており、年度末賞与を支給することができた。

東野センター分室での活動も２年が経過した。ご利用者も慣れて活動に参加できている。昨年度から引き続き実施している、土曜日開所も楽しみの一つとなっており、毎回 20 名程が利用されている。

また今年度、初めて姉小路ギャラリーで絵画展を開催し、来場した方からご好評をいただいた。今後も継続して絵画展を開催したいと考えている。

① 年間利用状況

事業日数	定員	在籍人数	実利用人数	1 日当たり	利用率
254 日	35 名	37 名	7,444 名	29.31 人	83.7%

②利用者程度区分

区分１	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６	計
0	0	2	14	17	4	37

③職種別職員数

区分	管理者	サービス管理責任者	支援員	看護師	嘱託医	計
常勤職員		1	6			7
非常勤職員	1(兼務)		4	1(兼務)	1	7

④生産活動事業収支

30 年度	収入	必要経費	工賃	収支差額	平均支払工賃額
受託事業	789,936	9,126	567,072	285,738	1,660 円
自主製品	95,080	69,593	141,708	▲78,501	
清掃事業	72,000	0			
その他（販売他）	37,720	0			
合計	994,736	78,719	708,780	207,237	

⑤事故・苦情

利用者にかかる事故	0 件	
運転事故	物損事故　1 件	人身事故　1 件
苦情	なし	

30 年度は、昨年度からご利用者が企業就職にチャレンジすることになり、初めて就職へつなげることができた。職員にとっても初めてのことだったが良い経験となり、また他のご利用者にとっても、新しい道へ進んでいく仲間の姿を見て、新たな刺激を受けたのではないかと思う。生産活動では、新規の作業を受けることで、ご利用者一人一人のスキルアップに繋がっており、各作業でもご利用者だけで取り組める部分が増えている。

今後もリーダーを中心に、ご利用者同士で助け合いながら、作業や余暇活動に取り組んでいけるよう支援していきたいと考える。

① 年間利用状況

事業日数	定　員	在籍人数	実利用人数	1 日当たり	利用率
254 日	20 人	24 人	5,422 人	21.4 人	106.7%

② 職種別職員数

区分	管理者	ｻｰﾋﾞｽ管理責任者	職業支援員	生活支援員	目標工賃達成指導員	嘱託医
配置人数	1	1	7	2	1	1
常勤換算	0.2	1	3.7	1	1	―

③ 生産活動事業収支

30 年度	収入	必要経費	工賃	収支差額
受託事業	1,922,566	292,220	2,676,561	1,548,807
清掃事業	3,664,152	1,069,130		
その他（販売他）	3,190,832	2,940,250	1,524,384	▲1,273,802
合計	8,777,550	4,301,600	4,200,945	275,005

④ 工賃支払状況

	30 年度	前年度比
総支給額	4,200,945	91.3%
工賃支払対象者延べ人数	273	91.0%
1 人当たりの　支給月額	15,388	100.3%

⑤ 事故・苦情

事故	物損事故：0 件	人身事故：0 件
苦情	なし	
利用者に係る事故 0 件		

平成 30 年度事業報告　京都市だいご学園

（多機能型就労移行支援事業・同就労継続支援Ｂ型事業）

就労移行支援事業

４月当初は在籍者５名でのスタートとなり、作業内容やプログラム等の見直しを行いながら、Ｂ型事業と一体的に支援を行った。７月８月に再就職の利用希望があり、ようやく独立した体制で支援プログラムを始めることができるようになった。１１月には４名が時期を同じくして、それぞれに適した業務内容での就職を叶え巣立っていった。いつ巡ってくるかわからないチャンスを掴むために、各々が自己管理の力を身につけ、日々の作業や座学において自分自身を知り、特性ともいえる障害の部分について対応策を身につけられるよう、休まず真面目に取り組んだ努力が実を結んだと言える一方で、次月からは収入が３分の１となるなど、苦しい経営を迫られた。

また、今年度は報酬改定が施行されたが、基本単価の加算根拠の基準が変わり、従来通りの事業所努力だけでは補いきれない矛盾を感じながらも、利用者に寄り添った支援を全うした。幸い今年度は前年度の実績が新基準に当てはまり最高単価を取ることができたが、次年度は今年度定員の６割の就職率という成果をあげていても、就職時期において要件を充たさないため、大きく基本単価を下げることとなる。移行支援事業所の運営は就職者を出し続けなければ経営は厳しくなる一方で、多様化した受け皿が急速に広がった就労移行支援事業において、新規利用者の確保というのは年々厳しさを増す状況にある。

①年間利用状況（就労移行支援事業）

定員・・6 名／登録人数（3 月末）・・6 人

新規受入・・6 人／退所者数・・5 人

稼働日数・・256 日／通所延人数・・1.263 人

一日当り・・4.9 人／利用率・・82%

就労継続支援Ｂ型事業

30 年度は 5 月に開所した分園の運営に奔走した一年となった。5月に「Café &shop ふらっと」をオープンし、試行錯誤の中、迷走しながらも「利用者と共に働く店」として、オールシーズンを駆け抜けてきた。カフェに携わる者全員がカフェ経験がなく、人通りが少なく、人目につきにくい場所という店舗としては不利な要素を持ちながらも、利用者の日々のひたむきな接客や笑顔、また手間を惜しまない店の姿勢が、少しずつ地域の方に受入られるようになり、最近では朝一番の常連さんもでき１日平均３０人程度のお客様にご来店頂けるようになって　きている。利用者にとっては、１週間毎のシフト制で喫茶業務と厨房での補助業務に携わる中で新しい就労スキルを身に付ける場にもなっており、ふらっと業務に従事することを一つのモチベーションに学園生活を送る利用者も増えてきている。

また 10 月には、学園主催での大きなイベントとして「だいごマルシェ」を実施した。様々な人達の応援を得て、地域に向けて発信できたことは「だいご学園」にとって大きな一歩となった。

各授産事業については、今年度も概ね安定した取り組みができた。製菓事業における卸部門については、大学生協を中心に安定した受注を受けることができている。そのなかで京都大学生協と共同で始めた「単位クッキー」は反響を呼び、次年度のテスト期間限定での販売受注も頂いている。直販においては商品のマンネリ化もあったためか、売上を伸ばすことはできなかったが、６月より新たに新規開拓した「東山ササナトリウム」の売上が好調で全体の売上を支えてくれた。そんな中ではあったが、今年は原材料の大幅な値上げ状況が利益に大きく影響してきたことから、菓子製造において、全商品の構成・商品原価の見直しを行い、一部価格改定を実施し、各取引先に廃番商品のお知らせと価格改定のお願いに奔走するなど、まさに学園一丸となって駆け抜けた印象深い年度となった。

①年間利用状況（就労移行支援事業）

定員・・24 名／登録人数（3 月末）・・34 人

新規受入・・5 人　／退所者数・・１人

稼働日数・・279 日／通所延人数・・7.289 人

一日当り・・26.2 人／利用率・・109%

平均工賃　16.165 円

平成３０年度事業報告

デイスポット楽（生活介護事業）

【 概　要 】

今年度の行事は、ミシガンクルーズや SA（サービスエリア）巡り、京都駅周辺への買い物、岡崎周辺散策など、利用者と相談しながら１日外出を年２回実施した。また、館内行事は実施方法を変更し、週１回利用の方でも必ず行事に参加できるように納涼祭りや、ハロウィン、クリスマス会、バレンタインなど２か月に１回、曜日を変えながら計５回の行事を実施した。

＜エキスポシティ＞

＜ミシガンクルーズ＞

＜動物園＞

通常の活動としては、歩行や階段昇降、ストレッチやマッサージなど個別で行う機能訓練、カードゲームやボッチャ、体操プログラム、ソフトエアロなどのグループ活動や園芸、貼り絵、折り紙などの個別活動に加え、季節に合わせた壁面画作成や行事に伴う創作、映画鑑賞、ｉｐａｄ、スヌーズレン、園芸活動などを取り入れ、個々の適性に応じたプログラムの提供を行った。また、２か月に１回施設内で提供していた散髪・美容カットの回数を月２回に変更したり、家庭での入浴が困難な利用者に対して、入浴の機会を提供するなど生活の質の向上に努めた。入浴回数については職員体制を整えながら随時、見直しを行い、少しでも多くの利用者が入浴できるよう検討し、サービスの向上を図った。

＜園芸活動：イチゴの収穫＞

＜行事：ハロウィン＞

＜創作活動：うちわ作り＞

29 年度の開所時より、登録利用者も着実に増加し、収入も増加している。31（令和元）年度もこれまで取り組んできた支援や活動をより充実させ、利用者との信頼関係を深め、よりよいサービスの実現と、デイスポット楽のさらに安定した運営が行えるよう努めていきたい。

【年間利用状況】

事業日数	定員	在籍者数	実利用者数	１日あたり	利用率
263 日	20 名	30 名	4019 名	15.3 名	76.5%

【利用者の障害程度区分】

区分１	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６	計
０名	０名	０名	４名	５名	21 名	30 名

【職種別職員数】

区別	管理者	サービス管理責任者	生活支援員	看護師	嘱託医
常勤職員	１名	１名	６名	１名	
非常勤職員			６名		１名

【事故・苦情】

事故　０件　　（物損　０件　　人身　０件）　　・　苦情　０件

平成 30 年度 事業報告　生活サポートセンター『ほっと』
（居宅介護・行動援護・重度訪問介護・同行援護・移動支援事業）

１．事業内容

前年度から職員が不足している状態が継続し、年度当初に職員の確保が出来なかったため、既存の利用者のサービス継続が困難になったケースがあった。継続できないケースについては他事業所への協力を仰いで引継ぎした。また、人員が不足していた件については、年度途中から１名人員を補充し、既存のサービスをできる限り減らさないように努めた。

経営実績については、４月から事業所の隣接地で実施の支援に関して減算が導入されたことを受け、隣接するグループホーム共同ホームあんどへの居宅支援、デイスポット楽利用者の通院介助について減算となり、当初見込みよりも減収した。

職員やヘルパーの資質向上を目的に、外部研修については「強度行動障害支援者養成研修」に申し込みを行い、基礎研修を２名受講することができた。別途、ヘルパー・世話人向けの内部研修を例年通り年２回実施した。第１回目の研修会では、災害対応と感染予防について取り上げた。２回目の研修会では、グループホームでのウイルス性胃腸炎対策のために吐しゃ物処理キット等の衛生保持用品の導入を行い、再度、感染防止対策の講習を行った。また年度当初に実施したヘルパー、世話人向けアンケートを集計し、従事者へ取り組み状況について報告した。

地域振興事業については、これまで東野センターで実施してきた地域交流スポット楽での取り組みの報告を行い、協力を募った。

２．派遣状況

	介護給付費	地域生活支援事業	計
年間 （事業収入）	10,611 時間 （50,119,000 円）	5,639 時間 （12,834,000 円）	16,252 時間 （62,953,000 円）
月平均 （事業収入）	884 時間 （4,176,000 円）	469 時間 （1,069,000 円）	1,354 時間 （5,246,000 円）

３．職員体制

管理者（兼務）	サービス提供責任者	常勤ヘルパー（兼務）	事務員（兼務）	登録ヘルパー
１名	３名	１名	１名	37 名

４．事故・苦情件数

事故	ヘルパー派遣時：０件	車両：３件（物損）
苦情	０件	

平成 30 年度事業報告　共同ホーム　あんど
（共同生活援助（介護サービス包括型）

① 事業内容

平成30年度は、共同ホームあんどが開所してから２年目を迎え、現在入居者は安定した生活を送れている。ショートステイ利用者とあんど入居者とが、より良い環境で過ごせるように現況把握のため、バックアップ施設である、ほっと職員が世話人に同行してあんどに泊まり、ショートステイ支援員の支援時間、支援内容を見直した。その結果、世話人業務の負担が軽減され、ショートステイ利用者と入居者との関係も安定し、より良い住環境が整備できた。

特に女性寮ではショートステイ利用者の来訪を楽しみにしている様子と報告があった。また、女性寮で以前から行っている入居者の誕生日会を男性寮でも開催し、カラオケ大会も行い、入居者・家族から喜んでもらえた。今後とも、誕生日会、季節のイベント、男性寮女性寮合同のイベントを増やしていきたい。

職員体制に関しては、３月末で男性寮世話人１人が世話人業務から退任するため、木曜日のみ 15 時～19 時は女性の世話人、その後の 19 時～翌朝 10 時まで男性の世話人で体制を変更した。３月末から開始すると、朝の女性ヘルパー同様、夕方に女性世話人がキッチンに立って調理したり、その他家事をすることによって、より家庭的な雰囲気で場が和み、男性の入居者が非常に喜んでおられた。

② 職員会議・研修

スタッフ会議８回、世話人会議４回

山科エリア研修、外部・内部研修

③健康診断

利用者（通所先で実施）、職員全員に実施。

④消火・避難訓練

年２回、消防署と協力し、消火・避難訓練を実施。

⑤利用者の障害支援区分

性別	区分４	区分５	区分６
男性	２人	１人	１人
女性	２人	２人	

⑥職員体制

職　種	常勤	非常勤
管理者（兼務）	１人	
サービス管理責任者	１人	
世話人・生活支援員		14 人
夜間支援員		12 人

⑦利用状況

	開所日数	延利用者数	平均利用者数
H30.4 月～ H31.3 月	363 日	2,844 人	7.83 人

⑧事故、苦情

事故	０件
苦情	０件

平成 30 年度事業報告　共同ホーム　あんど（短期入所）
（短期入所事業（空床型））

① 事業内容

当法人にとって初めての短期入所事業（ショートステイ）を平成 29 年 10 月から女性、３０年２月から男性の受け入れを開始した。

平成 30 年度の利用人数は、女性寮月平均３．４人　男性寮月平均６．７人だった。男女とも徐々に重度障がいの方の利用受け入れを行い、その利用者も増えている。

ショートステイを利用された方は、自分の将来のためにグループホームでの生活を体験され、「他の入居者と共に有意義な時間を過ごすことができた。」また、ご家族からは「自分の時間がもて、ゆっくりと過ごすことができた。」と喜ばれている。

今後、男女ともに利用者を増やし、定期的な利用が定着するように、職員の介助技術を向上させ、個々の障がい特性に合った支援が提供できるように取り組みたい。また、生活サポートセンター『ほっと』がバックアップ施設として機能し、短期入所事業が円滑に進むよう職員体制を整備していきたい。

② 年間利用状況

＜月別利用状況＞　（人）

	平成３０年度		
	男性寮	女性寮	計
4月	3	3	6
5月	4	4	8
6月	5	4	9
7月	7	3	10
8月	7	2	9
9月	10	1	11
10月	11	5	16
11月	7	1	8
12月	6	5	11
1月	6	4	10
2月	5	5	10
3月	9	5	14
	80	41	121

＜区分別＞　（人）

区分	平成30年度	
	男性	女性
2	0	23
3	0	0
4	23	0
5	22	9
6	35	9
	80	41

③ 職種別職員数

職　種	非常勤
管理者（兼務）	１人
サービス管理責任者	１人
世話人・生活支援員 夜間支援従事者（兼務）	１２人

④事故、苦情

事故	０件
苦情	０件

平成３０年度事業報告

放課後等デイサービス　すてーじ

☆事業概要

開所して２年目の平成３０年度は２名の新規利用者を迎え入れ、登録者数は２５名になった。年度途中での利用日数増加の希望にも対応し、一日当たりの利用予定者数は定員の１０名を越えている。

体調不良や家庭都合等での欠席の他、入院での長期欠席もあり平均利用率は９０％だった。

経営面においては、平成３０年度の報酬改定に伴い、重度障がい児を全体の５０％以上の利用率で受け入れている当所は、収入の増加に繋がった。しかし、重度障がい児の根拠とされる『指標該当』は毎年見直されることや、長期の欠席で大きく重度障がい児の利用率が変化することもあり、今後この５０％以上の利用率を維持し、高い報酬単価を得るため、先を見据えながら利用者の確保を行っていきたい。また、平成３０年度においては、報酬改定や利用者増により２年目にして黒字経営に転じることができた。

重度障がい児を受け入れるに当たっては、医療的ケアや障害特性を理解した高い支援スキルが必要になってくる。よって次年度は、職員の支援スキルの向上とプログラム内容の充実を図り、より質の高いサービスが提供できるよう励みたい。

☆主なプログラム

創作・室内レクリエーション・スヌーズレン・屋上遊び・クッキング・外出・フィジカルケア

＜創作＞

＜室内ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ＞

＜クッキング＞

＜屋上遊び＞

☆年間利用状況

事業日数	定員	在籍人数	利用延べ人数	平均利用者数	利用率
２９４日	１０人	２５人	２６５５人	９．０人	９０．８

☆利用者の内訳

	小学生（低学年）	小学生（高学年）	中学生	高校生	合計
男	６人	４人	４人	４人	１８人
女	５人	０人	１人	１人	７人
合計	１１人	４人	５人	５人	２５人

☆職種別職員数

職種	管理者	児童発達支援管理責任者	児童指導員	保育士	看護師
常勤	１名（兼務）	１名	３名	１名	
非常勤			３名		３名

☆事故・苦情

事故	物損事故　７件	人身事故　なし
苦情	なし	